

第4回吉野川市中小企業者等振興対策協議会会議録要旨

- 1 招集年月日 令和元年11月11日（月）
午後2時から午後3時26分（1時間26分）
- 2 招集の場所 吉野川市役所 東館2階 221会議室
- 3 出席委員 5人
- 4 会長選出人 1人（財務局徳島財務事務所）
- 5 出席職員 事務局4人
- 6 傍聴人 2人（吉野川商工会議所、吉野川市商工会）
- 7 会議日程
 - 1) 開会
 - 2) 協議事項
 - ① 吉野川市商工振興プレゼン大会の評価について
 - 3) その他
 - 4) 閉会
- 8 会議の経過

【日程2 協議事項】

◆ 協議事項（1）吉野川市商工振興プレゼン大会の評価について

会長 （1）吉野川市商工振興プレゼン大会の評価について、事務局から説明をお願いします。

事務局 （事前配布資料の説明）

会長 まず、「アリーナを拠点としたスポーツ活動での地域活性化」についてです。3年間はアリーナの指定管理者ミズノと平行して、地域型のスポーツクラブが走行する形になると思います。商工としてサポートする意味は、企業の福利厚生の部分と連携するだとか、地域内にお金が回ることを含めたサポートを展開するといったのではと個人的に思いました。

委員 例えば商工会の主催するスポーツ大会のイベントができるのではないのでしょうか。吉野川市内にたくさんあるスポーツクラブと連携して可能な限り空きのないよう利用することが一番だと思います。企業との協同というのも可能だと思います。地域のものは地域の人で頑張るものだと思います。

会長 会員ビジネスは、一定数の人数が確保できれば、その1年間は予算内である程度は動くというサブスクリプションモデルなので、我々としては営業を含めたところをサポートすることが第一段階です。最初の1年間は皆さん優しいので義理で入られると思いますので、立ち上がった段階で2年後3年後に向けてのサポートをする気持ちが必要です。個人的には、彼らに新作発

表の場というイメージで、毎年プレゼン大会で発表をしてもらうのも広報のパターンとしては悪くはないと思いました。今後、(プレゼン大会で発表してくれた) パワポをブラッシュアップしてあげることで、営業ツールのサポートという支援になると個人的には思っています。

委員

私の中ではキーワードが2つあり、1つは連携、もう1つは情報発信です。連携で言えば、地元の子供たち、企業、スポーツクラブのようにいろんな企業団体と連携していくことと、ミズノのネットワークを活用し、例えばトップクラス選手を呼んだイベントを開催し、トップクラスの技を目の前で体感するだとか広がりをもたせることができればいいと思います。もう1つは、イベントをすると当然情報発信して知らせる必要があります。テレビ、新聞、スポーツ雑誌あらゆるメディアに情報をリリースして発信するだとか、SNSも活用して広げていければいいと思います。手広くすると予算も必要になってくると思います。SDGsの中で何らかの位置づけができると企業がコスト負担してでも、自治体と組ませてやらせてくださいとなる可能性も感じられるため、そのような切り口も面白いと思います。

財務局

会長の話と重複しますが、見せ方の支援ができれば一番効果的だと思いました。サブスクリプションモデルにしても魅力発信、まず行ってみたいと思うような見せ方を工夫しなければいいことをしていても情報が届かないということに陥りそうなので、そこをどうご支援するのかというところが1つキーになると思いました。

委員

先ほど会長が申しましたとおり、設立したては人もくると思います。だけど、継続性というのは限られた人数でいつも賑わうというのは難しいです。コンセプトとして、2年後3年後には教育特区のようなものを指定し有名な人を講師に常設して徳島からオリンピック選手を輩出するようなトップアスリートを目指す教習所をつくり、県内外から子供だけでなく親もついてくるぐらいのところを目指していかなければならないと思います。1テーマ2テーマ定めて、親がついてくるぐらい魅力のあるものを考えて今発足すると、人口も増えてくると思います。また、県内外から吉野川市に来たら、空き家もありますので、自治体がリフォームし、10分の1ぐらいの家賃で貸すような仕組みをつくっていくべきだと思います。それは、オール吉野川市で自治体も地域産業も企業も団体もみんなが同じ方向に向いて1

人でも2人でもトップアスリート等を創出するよううったてにしてはどうかと個人的には思います。

会長 数日前にラジオで聞いて詳しくはないのですが、新潟の柏崎市が水球の町で、水球の強い方が自分のクラブチームをつくり、日本一になっていて世界選手権でも上位に入るぐらいに5年でしているそうです。トップクラスになるとそこに住み、学校も水泳の際にはトップアスリートの姿を見るそうです。先ほどの話ですが、学校は人手が足りないので体育に関わってくれるのは信頼があるところであればウェルカムなので、そういうのも含めて社会貢献ではないですが底上げをしていくことはたぶん重要で、こういうことを考えるということなんでしょうね。今はまだわかりませんが種目を考えて。

委員 マイナー競技でいいんですね。

委員 人を呼ぶために職場をつくるということは大変です。親御さんが寄ってくるトレーニングセンターになるような仕掛けを考えるといけないですね。最初からするというのは無理だと思いますが。

会長 なにかやりましょうよ。4年に1度は必ずオリンピックがあるので、マイナースポーツの何かに10年後ぐらいには吉野川市から選手を出すっていう目標を立てるのは悪くないのではないのでしょうか。

委員 指定管理のミズノとおえっこスポーツクラブは協調しているのですか。それともおえっこスポーツクラブさんは独自でやる方向ですか。

会長 全体の建物自身のやつを受けているのが基本的にはミズノですよ。

事務局 そうです。

会長 借りたり、中身の運営の部分をするので、恐らくそこまでの話はされてないというのが現状です。

委員 アリーナ自身のほうの全体像というかイメージが湧いていませんので。

会長 言っているのでしょうか。それがないので、ミズノに高額な指定管理料を入れたということが、亡き市長の意向で、それは間違っていたと思います。吉野川市がミズノを呼べるなんて思っていないので相当なインパクトがありますし、お金をかけたなりの効果はたぶんあったと思うのですが、先ほどおっしゃられていたようなジョンはないです。ミズノのトップアスリートが来てくれるだとか、商業的な部分で回っているから、それだ

けで終わらせないような何かがこちら側にあるとすごく強くて、ミズノ側も吉野川市側にこういう形で展開したいということがありとやりやすいと思います。ただ、誰もやったことがないので最初はミズノのノウハウに頼っても仕方がないと個人的には思います。

委員

大きな大会をすると、場所はつかわれても泊まる場所は市外になるので地元にお金が落ちない状況がありますよね。ホテルだけに頼るのではなく、空き家や民泊も考えていく必要があります。それと、吉野川市の観光協会は今どういった状態なのでしょう。

事務局

観光協会は今年の3月末で解散という形になっています。

委員

その後は？

事務局

今のところは新しい協会的なものはこしらえていない状況です。

委員

この4つのプレゼンを見て、これらを統括できる組織がないと、これがばらばらに動いてしまうと効果がないと思います。阿波市の観光社団法人の活動がすごいので、真似しなければいけないわけではないのですが、上で動いてくれる組織、自分たち以外に協力者があればまた違うと思うのですが。

会長

DMOは流れに乗っているのでしょうか。

事務局

徳島東部圏域でイースト徳島で我々も管理はさせていただいています。

会長

加入するときのこちらの受け皿の部署はどこでしょうか。

事務局

商工観光課です。

会長

今インバウンドでたくさん来ている白馬やニセコは、10年以上前から担当者が海外に出て宣伝をした結果です。基本的に誘客をすることがいなければだめなので、パッケージ化をして広報して回り、また、ターゲットが大事なので、我々は強い高校に合宿に来ませんかという高校営業になるかもしれません。補助金をつけるのであればパッケージ化した誘客のところに回すようにしなければ、変に補助金をつけると、その補助金を年収にして企業を回すというよくない企業形態が始まってしまいます。DMOに入るのであれば連携する受け入れ団体がないとDMOでもこちらの意見が強く通らないですよ。

事務局

そうですね、向こうは向こうの事業展開をしていますから。

会長

会には出ているけれど、行政なので具体的に動いている人と繋がらないといけなくてもあまり繋がると癒着だとか言われてしまうのであまりよくないのだと思うのですよね。なので、全体を踏まえたところがあるわけですよね。本当は僕たちができる

と言えればいいのですが、言い切れません。でも、この会の完成形はそうなんですよね。今我々は非常勤職員みたいな形ですのでタイムワーカーを雇うのでしょうか。

委員

皆さん考えすぎで、高校だと3年で卒業ですが名門があります。名門といえど、最初の頃は歴史はなく、うったてをして何年後かに知名度が上がって名門になります。選手も自分の対外的な位置づけが自覚されたらそこで自信と努力をします。徳島マラソンをしていますが、そこからアスリートがでたのかということです。参加人数15000人で四国や近畿では一番多いといわれますが、寄るだけでは興味ある人となない人とわかれてしまいますよね。だから、アリーナのところに旗を立てて1つの軸をつくらないといけないと思います。

会長

全体について言えることであると思います。基本的なテーマを考える時もそういう風にして考えていかないといけないですね。続きまして、「5963でブランド化をしよう」というテーマについてお願いします。

委員

アラビア数字の5963は冷たい感じがするので、五九六三と和数字にするのはどうでしょうか。曾我廼屋五九郎も、20代30代の子は知らないと思うので、いかに現代的な人と結びつけるか、また、まちづくり株式会社と一緒に考えてもいいと思うのですが、地域の関係団体と根ざし広げていけたらいいかなと思います。ですから、観光協会の話に戻ります。

会長

そうなんですよね。

委員

地元のPRができるのは観光協会が一番冠としてはふさわしいと思います。追々にでも観光協会の仕組み立てができないかという気はしています。

会長

ただ、観光協会が潰れるのは、会費を払う人がいない、ステイクホルダーがいない協会は潰れてしまいます。

委員

阿波市は一般会員がいます。

会長

阿波市はちゃんとした人が集まっているのだと思います。協会のイメージが半官半民でないというのが問題です。阿波市では農業をしている人も入ってイベントをしています。昔であれば農家が観光協会に入るということはあり得ないと思うのですが、最近エコツーリズム等もあるため、上手くいくと自分たちも儲かるので、そう考えた時に、どこが観光協会のキャッシュポイントになるのかという人が明確でないと辛いのかなと思います。今はネットで個人で全部できてしまうので会費を払うことは無駄という、ビジネスの形は変わってきています。それをち

やんと見せないといけません。吉野川市で観光メインではって
くれるところはどこになるのでしょうか。

委員 市がやらないとしたら、鴨島であれば立場的には商工会議所で
しょうか。
(委員持ち込み資料配付)

会長 振興対策をしていくのに今は単純にワーキンググループをして
おり、しているからこそこのような話が出てくるのですが、こ
れが基本の状態ではありません。業務が明確になれば平常化し
たような組織、既存イメージだと阿波観光協会的なものでしょ
うか。阿波市と吉野川市は政治や産業構造等そんなに違うので
しょうか。

委員 川島に本社があり、阿波市に工場があってもよそ者と言われ
たりします。

会長 そういうところも上手くまとめているんですね。

委員 知らない者は知らないでいいんですよ。知っている人は知っ
ている、それでいいのかもしれない。

会長 なので、逆に言うと、吉野川市もやる気があればできる訳なん
ですよ。

委員 やるのであれば、後世に残るよう、47都道府県の中に吉野川
市があるというようなイメージ作りを考えないといけません。
5963にしてもお菓子屋さんにもコンペをするだけかして、
県外にお土産を持って行く時は企業に割り当てをするぐらいの
ことをしないと自然発生的にはできないですよ。徳島に来て
ごくろうまんじゅうを買わなければ意味がないというぐらいに
するためには何をするかということをしていきたいと思います。

委員 市で条例をつくるとか、吉野川市民が県外へ手土産を持って行
く際はごくろうさんまんじゅうを持って行くことというように。

会長 かもじま五九郎まちづくり株式会社の事業計画はどのような感
じでしょうか。

事務局 事業計画は見ていませんが、幅広い業務内容が定款には書かれ
ていたと思います。何にでも対応できるような形の事業形態だ
と思います。

会長 どうしたらいいのでしょうか。

事務局 株式会社を立ち上げていますが、試行錯誤の段階だと思うので、
まだこれというように動いていないというのが現状だと思いま
す。

会長 委員会としては2つとも事業をしたいということであれば、こ

の会に来ていただいて、具体的な事業をお話いただければ我々
なりのサポートは考えられるので、相談権のプレゼントでしょ
うか。僕は中心市街地活性化の研究者ですのでだいたいこうい
うところに出てくるなんとかの会というのは、再開発の時の地
権狙いだったりだとか、住民団体がないと市役所自身が相談す
る相手がないので起きてしまうこともあり、ある程度必要だ
とは思いますが、事業計画があって初めて会社があると思う
ので、何もなしに会社だけあるということはいけないと思い
ます。役割的に本当はJ Cではなく、鴨島のイベントをすべき
なのではないでしょうか。本来J Cは修行のための会ですので、一代一
代ごとに違うことの経験をしてもらうところなので、よくJ C
には継続性がないと批判されています。でも、J Cがチャレン
ジングでしていることを地元が引き継いで継続的にやればい
いことで、今回の場合は他に受け入れ団体もなく、形式的には町
内会の商店街がしていたハロウィンが盛り上がっていたため、
それに合わせる形で去年開催し、辞めるのがもったいないため
今年も開催とJ Cが続けてやってくれています。本来青年会
議所はそのような組織ではないので、継続的に事業としてやる
のであればどこかのまちづくり会社等が引き受けるのが筋です
し、場合によっては観光協会等がやりながらブラッシュアップ
を図っていくことが正論です。今はJ Cに続けてもらうことを
この会としてはお願いしますが、全体的な内容を理解し人を集
める組織というのは必要ですね。ただ、今だとボリュームが足
りないため、今立ち上げると補助金漬けになってしまうのであ
れば、代替的に市役所のどこかが持っていただければいいの
ですが、ある程度事業をそういう部分の予算として回せるのであ
ればありなのかなと思います。ただ、これは人ありきで、力のある人
がいるのであれば無理して立ち上げてもいいとは思いますが、
いないところに、組織だけあるとしても難しいので、人探しに
なるのかなと思いました。まとめとして観光協会をイメージと
しつつ、吉野川市にサポートする団体を長期的には考えていき
たいということですね。それでは最後の「やっちゃえローカ
ル！」ですが。情熱があって、支援が必要な人ってこの人たち
だと個人的には思いました。

委員

個人的に、知識を集め持っている情報をコーチし、それに協賛
してくれる人がいないかなという意図で話されたと思いますが、
吉野川市から出た実業家の方がいても、だから戻ってきてとい
うのはなかなか結びつかないと思うので、ビジネスとしては難

- しいと思います。最新の半導体であるとか吉野川市でバレー構想をつくろうと言ってもネタがありませんので、もっと絞り込まなければ私はまとめることができません。
- 会長 あれでもだいぶん絞ったみたいですよ。ですからそういう情熱はすごいんですね、本当に驚きました。
- 委員 バイタリティがありますね。それでビジネスをすることになったらね。
- 会長 同じようなことをしているのは神山です。でも神山町ですら半導体のようなハード系の工場はきておらず、設備投資もなく、建物をリノベーションして設備があまりなくても大丈夫な人が住んでいるということが現実です。ただ、人が入り、情報があり、有名になってライフスタイルが変わり、若者が入って楽しい生活をしているということは間違いなく、原田さんの話もそういう風になっていくのだらうかと個人的には思いました。
- 委員 僕ら年配者と私たちの子供の世代とのビジネス的なスケールがあるので、なんとも言えませんが、2、3年前に亡くなられた方で相談相手になってくれるような人がいました。
- 会長 僕のネットワークでは原田さんを活かすことができませんので、外の人と合わせてあげられると、繋がりができてパパッと進むと思います。
- 委員 日立の社長は小松島出身です。
- 委員 JTBの社長も石井です。日本生命の社長は鳴門市出身です。
- 会長 わかりました、市長から、飯泉知事をお願いして東京で社長県人会をやってもらいましょう。各自治体から若者を連れてくるから助けてくださいと。そういう機会をつくるのは我々オフィシャルなところが声かけをしておくとうりやすいと思います。阿南市、徳島市、吉野川市の市長と知事とで握手をしてもらい大企画をしましょう。テック系や新しいビジネスを考えている若者だと県内だけでサポートしきれませんから、話を聞いてもらうような場や県人会的なものは必要なのかもしれませんが。この会としては、外の人たちと繋がるような勉強会やクローズの会でサポートしていくということが必要ですね。
- 委員 原田さんは夢があります。今の社会に適応している人だなと感じますし、いろいろなことで出かけています。本人とメンバーや友人がたくさんいるので、広げていくということで将来性があると私は思っています。
- 委員 原田さんのプレゼンは長く疲れてしまったのですが、吉野川市に対する愛、地域をよくしていこうという熱い情熱を感じまし

財務局

た。地域活性化をしたいという熱い想いを語る方は全国各地におり、そういう人たちは同じぐらいの熱量の人たちとすぐに繋がります。先ほどからいろんな企業人とのネットワーク作りのお話がありましたが、合わせて地域のキーマンと繋げてあげて、広げるお手伝いのできたらいいのかなと思いました。また、ビジネスの構想を語られていましたが、もう少し経営の勉強もされて、ネットワークができたうえで事業化に向けて一歩先に進んでいくときに必要と思いました。頑張ってもらいたいと思います。10代から30代に刺さるお話をされており、まさに共感資本主義、ステレオタイプの若者に生まれている層を上手くネットワークキングしている方だと思いました。一番のネックになったのは会場にいた人と何を狙っているのかという意思疎通ができていなかったところにヒントがあると思っており、いきなり外の有名な人と繋がるよりかは、まず、地元の方々や専門家の方々とのビジョンの明確化やビジネス上のブラッシュアップをしつつ本当に町づくりをしている層やブランドをつくろうとしている層とかと連携し、巻き込み彼らがそれを伝えられる役割を担えれば町づくりのキーマンのような存在になると外目には感じました。

会長

そのようなコミュニケーションがとれるのであれば原田さんの魅力がなくなるような気がします。ただ、支援策の話になると、そこは似ていて、原田さんのやっていることがわからないため、可能であれば見に行きたいと思いました。彼のところに集まる若い人たちがどういう人たちでどういうことを思っているのかをタイミングが合えば全員である必要はないですが見聞きしに行くのはいいなと思いました。本当は来年度は彼らのネットワークの人がプレゼンをし、ネットワーク内の人で順番に、第三者の前で話すというのには相対化される部分もあるので、続けてくれるといいなと個人的には思いました。それでは時間も押していますので、全体を通じて何かございますか。

委員

(特になし)

【日程3 その他】

会長

それでは、今言ったことをまとめていただき、考えていただけたらなと思います。それではその他ですが、事務局から何かございますか。

事務局

(事務連絡)

【日程4 閉会】

会長

(閉会の挨拶)